

令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

| | |
|----------|---|
| P T A名 | 静岡県立東部特別支援学校 P T A |
| 学校名 | 静岡県立東部特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱 |
| 設置部 | <input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部 |
| 全校児童・生徒数 | 90人 |

1. 使用状況

| | |
|----------------|--|
| 寄贈物品名 | スwing遊具 |
| 使用学年及び人数 | 小学部1～6年 38人 |
| 使用頻度 | 必要に応じて大教室に設置し、学習単元が終了するまで常設する。 |
| 使用状況 | <ul style="list-style-type: none"> 室内に設置し、自立活動、遊びの指導、生活単元学習で活用する。 必要に応じて屋外に運び活用する。 休み時間の余暇活動で利用する。 |
| 物品の使用による変化や効果 | 学習の単元の中で繰り返して利用することで、児童は恐怖心がなくなり、遊具に乗って揺れることに慣れ、「もっとやりたい！」という気持ちを表すことができるようになった。また、車いすで自走して、自分から遊具まで移動する姿も見られるようになった。児童は、揺れる遊具で不安定な動きに慣れることで、平衡感覚を高め、感覚統合で大切なバランス感覚を養うことができている。余暇活動では、遊具の周りにたくさんの児童が集い、交流の場になっている。 |
| 今後の活用の見通しや課題 | スwingサポートフレームの教室間移動をせずに、大教室に設置されている天つり金具から直接スwingをつり下げて利用する。毎年スwingを増やしていく、サポートフレームに異なるスwingをつるし、多様にアレンジする。児童の興味、関心をさらに喚起し、体の感覚を協調させるように促し、感覚統合をねらう。 |
| その他 希望や所感など | 他のスwingを購入してもらい、さらに楽しめる教具になった。 学習内容や児童の実態や学習内容に応じて、スwingを付け替え活用できている。 |

2. 活用の様子



寄贈いただいたスイング遊具（右）と新たに購入したスイング（左）を並べて、天つり金具からつり下げるで活用している。



教師が「次、やりたい人？」と声を掛けると、児童は、手を打ったり、拳手したりして、やりたい気持ちを表す。
車いすを自走し、スイングに近寄ってくる児童もいる。

天気の良い日は、屋外に設置して学習している。

座位がとりにくい児童は、補助具にクッションチェアを固定してつるしている。